生きがい通信

No.192

公益社団法人 習志野市シルバー人材センター
習志野市屋敷4-6-6 東部保健福祉センター内
TEL493-8011　FAX493-8040
URL:http://www.sjc.ne.jp/narashino/　E-mail:narashino@sjc.ne.jp

令和５年３月31日現在
会員数:803名
男性634名 女性169名

第23回千葉工業大学見学

第４９回お料理教室

女性会員活躍中！！

女性交流会「夢の輪」をご紹介

「夢の輪」は会員ではない方もご参加いただけます

女性限定の出張入会説明会も開催してます

入会説明会の日程は事務局までお問い合わせください

第５０回親睦会

第５８回「薔薇を愛でる」

～いつもお世話になっております～

賛助会員　学校法人千葉工業大学様

平成9年10月以前より、習志野市シルバー人材センターへ就業の発注をいただいております。

当初は「台所調理台の適切な高さ」「浴室用の給湯器の使い方」など研究の被験者の受注が主でしたが、令和5年4月現在「駐輪場整理業務」「情報処理実習室管理業務」「アスレチックジム受付業務」を津田沼キャンパス、新習志野キャンパスそれぞれより派遣契約させていただいており、延べ30名の会員がお仕事をさせていただいております。

①シルバー人材センターの印象、シルバー会員の働きぶりはいかがですか。

シルバー人材センターは、高年齢者の健康で生きがいのある生活の実現と、就業を通じて地域社会の福祉の充実にも寄与されている印象を受けます。多くの高年齢者が元気な姿で働き、社会に貢献していることが若い世代にも刺激を与えており、素晴らしい事ではと思います。本学で働くシルバー会員さんには、ご自身のこれまでの社会経験を活かして意欲的に勤務いただいており、非常に助かっております。

②構内でシルバー人材センター会員と学生が接する場が多くあるが、会員に期待していることはありますか。

シルバー人材センター会員さんの貴重な社会経験等が、本学学生の社会人としての自覚や責任の醸成に繋がる事を期待しています。

③シルバー人材センターとの契約に関係なく、御校の5年後、10年後のビジョンをお聞かせいただきたい。

建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」に基づき、各々の時代における社会のニーズに応じた技術者育成を目指しています。2024年度には、ICT（情報通信技術）教育に対応すべく学部改組を予定しており、今後も社会のニーズに応じた技術者を育成していきます。なお、当大学は日本で現存する私立工業大学で一番長い歴史を有しています。

新習志野キャンパス

津田沼キャンパス

コラム

関　博夫（花咲地区）

6年程前に上野で美術鑑賞後、ひと休みしていると修学旅行中と思われる子供たちから『スズラン』を一株貰ったことがあった。たしか宮城県川崎町の小中一貫校の生徒だったと記憶する。学校としての伝統で、かなり前から上野に来るたびにグループに分かれて声をかけ、希望者にスズランを差し上げているとのこと。私は礼を言い、家に持ち帰った。

その翌年、一輪咲いたが、それ以降芽を出すが花はついていない。

そしてその翌年の5月に同じく上野美術館に出向き、家内が出てくるまで入り口付近で待っているとびっくり!!今度は福島県の子供たちに「福島に来てください」と絵が描かれた画用紙を広げながら取り囲まれた。

絵の内容は疎覚えだが旅館が描かれていたような・・・。

2年連続で同じ場所で全く知らない子供たちに声をかけられたのは、何とも言えない変な気持ちだったが、少し嬉しさも残る体験だった。

3年続きのコロナ禍の中で、感染対策等が功を奏し、全国の修学旅行が復活してほしいと願う。

そしてまた、子供たちと遇えるのを期待して、今年はひとりでも上野に行くつもりでいる。5月に。

私のふるさと紹介

花咲地区　加藤　忠敬

「鶴の恩返し伝説の地」

山形県は、庄内・最上・村山・置賜の4つの地域に分かれていて、山、温泉、寺院、豊富な農作物などの宝庫です。ここでは私のふるさと南陽市に伝わる民話と古刹を紹介いたします。

南陽市は山形県の最南端に位置する置賜地区に属します。明治時代に英国の女性旅行作家イザベル・バードガは置賜・赤湯地方を訪れ「東洋のアルカディア」と記述しています。南陽市には、赤湯温泉や日本三大熊野のうちの一つ宮内地区の熊野大社があり、漆山地区には夕鶴の里があり、「鶴の恩返し」は数百年前から語り継がれ民話の里として現在も生き続けております。その伝説は江戸時代の古文書にも記され、記述としては日本最古のもののようです。又、鶴の恩返しに似た話は日本各地に語り継がれていますが、発祥の地として有名なのが南陽市なのです。

鶴の恩返しとは、助けてくれた若者（金蔵）に美しい布（曼荼羅）を織り上げ、形見として渡し、約束を破ったからと鶴が去っていく内容です。その後、金蔵はなげき苦しみ出家して仏門に入り、お寺を建てました。それが檀家である古刹・曹洞宗・鶴布山・珍蔵寺です。

珍蔵寺

鶴布とは、鶴が織った布のことをいい、その布を寺宝として開基したと伝承されています。当初は金蔵寺でしたが宝物の由来から珍蔵寺に改名して現在に至ります。

珍蔵寺の周辺にはそれに由来する「織機橋羽付」や「鶴巻田」などの地名が数多く残されています。石段を登った境内は山門と庭園が調和し、風格と趣のある、心休まる静かな空間が感じられます。数百年の樹齢を持つ大銀杏の木も堂々と鎮座し、梵鐘には鶴の恩返しが浮き彫りにされており、これらは四季折々のすばらしい風景を見せてくれます。特に大銀杏の葉が散る季節には、時は一面黄金色の見事な絨毯になり、私も小学校の帰りによくお寺に立ち寄り、銀杏の絨毯を踏みしめるのが好きでした。銀杏の実を持ち帰ると母が煎ってくれ「子どもは自分の歳以上食べるとバカになる」と言われながらも歳以上食べたこと、本堂で算盤を習ったことなどをとても懐かしく思い出します。

珍蔵寺の近くに当時築150年以上の茅葺三階建ての生家がありました。庭には小川が流れ、魚も泳いでいました。リンゴやナツメ、カキなどを兄弟で競い合って食べたものです。冬は寒く、雪も多くて霜焼けがとても辛かったことも思い出します。

今は土地だけとなり、年に数回しか行くことはありませんが、今でも孫に絵本の読み聞かせをするたびに、ふるさと南陽市、珍蔵寺のことを懐かしく思い浮かべながら、ここが私のふるさとだと自慢げに話しています。そして動物を優しく労わること、約束を守る大切さを言い聞かせています。

習志野に来て半世紀以上、今はここが私の「アルカディア」となりました。

機会があれば是非一度、山形県南陽市、鶴の恩返し伝説の地・夕鶴の里と古刹、鶴布山、珍蔵寺を訪ねてみてください。

行事予定

入会説明会（定例 月３回）
毎月第２・第３水曜日
午前９時30分～
毎月第２金曜日
午後１時30分～
シルバー人材センター会議室

出張入会説明会（不定期）
令和５年５月19日（金）
午後２時～
『谷津コミュニティセンター
ふれあいルーム』
令和５年６月16日（金）
午後２時～
『谷津公民館２階 講義室』

就業相談（予約制、会員限定）
毎月第２・第３水曜日
午後１時～（30分単位）
シルバー人材センター会議室

刃物研ぎ作業
毎月５日、12日、20日
午前９時～
袖ケ浦作業所
毎月第４木曜日　午前９時～
シルバー人材センター会議室

（事務局）

令和５年度「事業計画」「収支予算」

第12回理事会（令和５年３月22日開催）において、令和５年度「事業計画」「収支予算」が承認されました。

主な内容についてご報告させていただきます。なお、詳細につきましては、６月23日（金）午後１時から開催予定の定時総会でご報告いたします。

【事業計画】

重点施策として「会員の拡大」「就業機会の拡大」「安全・適正就業の推進」「運営体制の充実」「健全経営・運営への取り組み」「地域社会への貢献」の６項目を掲げました。新たな取り組みとして「入会促進コーディネーター」の設置、入会に至らなかった説明会参加者へのアフターフォロー、会員の健康増進としてフィットネスクラブと連携した企画、地区の再編成・役員構成の変更、事務費率の改定、センター事業としてのスマートフォン講座の開催などの計画が示されました。

【収支予算】

令和５年度収支予算は、経常収益で前年度当初予算対比2.6％減の４億8,180万３千円。経常費用を同対比2.8％減の４億8,425万6,937円を計上し、前年度から引き続き収益、費用とも減少とした予算を策定しました。

①経常収益（収入）

受託事業収益で前年度当初予算対比1,279万５千円の減、労働者派遣事業受託収益では32万６千円の増を見込みました。適正就業の推進から、新規の受注では派遣事業で成立するケースが増えることが見込まれ、相対的に受託事業での新規で成立するケースが見込みづらいことから、そのような事情を各事業における数値に反映させました。

②経常費用（支出）

事業費では、前年度当初予算対比1,722万3,307円の減、管理費で307万130円の増、全体で1,415万3,177円減の予算縮減を行いました。

経費全体でコストカットを行う一方、10月から開始される適格請求書等保存方式（インボイス制度）による新たな税負担分の支出を増やしています。

経常収益から経常費用を差し引いた当期経常増減額はマイナス245万3,937円と見込みました。

編集後記

季節は少し先の夏の話だが、10年以上続いていた合宿が３年ぶりに行われそうで、今から楽しみにしている。

八ヶ岳山麓にある先輩の別宅に「電車組」と「車乗り合い組」で１２、３人が集合する。半世紀以上前の同窓（運動部仲間）が飲んだり食ったりの一泊二日である。

静かな環境に注意を払いつつ夜遅くまで続くのだが、最近は歳のせいもあり早めに寝床につくようになった。八ヶ岳は八月でも関東とは気温が10度ほど違い、早朝は肌寒いくらいだ。

会費のほとんどは貸布団代と料理上手な同輩が作るどっさりのツマミ代に消える。長く続いているのも別宅を提供していただける当時の主将と料理人のような同輩の存在が大きい。

平均年齢も間もなく80歳。あと３、４年はこの贅沢な合宿が続いてほしい。

皆への感謝の気持ちがこの頃は特に強くなったきがする。

広報部会